



DATA ▶ レンズ RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM モード シャッター優先AE 焦点距離 45mm
絞り F6.3 シャッター 1/1000秒 ISO 32000 WB 白熱電球 露出補正 -0.3

ISO32000を利用し、動き回る水族館の魚を高速シャッターで撮影。高感度ながらもとても高精細に魚の模様まで美しく描写してくれた。

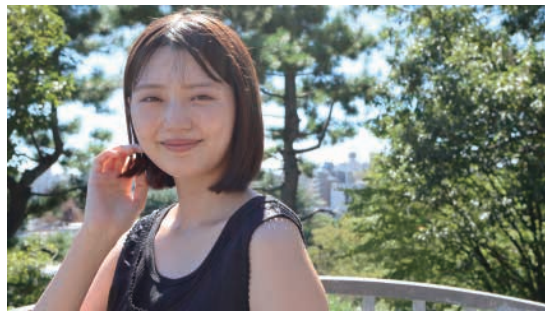
▶常用最高ISO感度32000と8.0段の手ブレ補正効果

EOS R7の常用感度はISO100～32000で、暗所でも高速シャッターが維持しやすい。レンズ側の手ブレ補正と協調することで8.0段の手ブレ補正効果を適用することもできる。このスペックは小型・軽量ボディと相まって、手持ち撮影の表現領域を大きく押し広げてくれる。



DATA ▶ レンズ RF-S18-150mm F3.5-6.3 IS STM
モード フレキシブルAE
焦点距離 18mm
絞り F3.5
シャッター 1/60秒
ISO 1250
WB オート(曇天気優先)
露出補正 +0.3

夜の市場での情景。高感度に設定したことでシャッタースピードもそこまで遅くなっていないが、手ブレ補正の効果もあってストレスなく撮影に集中できた。



DATA ▶ レンズ RF24mm F1.8 MACRO IS STM モード マニュアル 焦点距離 24mm
絞り F6.3 シャッター 1/60秒 ISO オート WB オート(曇天気優先) 露出補正 +0.3

4K UHD Fineで手持ち撮影した。こうしたポートレートも瞳検出でピント合わせは容易。手ブレ補正効果も存分に発揮されている。

▶3種類の4K動画モード

動画撮影においても実用的な機能を多く取り入れている。4K動画は4K UHD Fineなど条件やニーズに合わせて3種類から選択でき、4Kタイムラプス動画や4Kフレーム切り出しにも対応。また、ハイフレームレート動画も撮影でき、撮影意図に応じてEOS R7らしい、さまざまな表現にチャレンジできる。



DATA ▶ レンズ RF-S18-150mm F3.5-6.3 IS STM モード マニュアル 焦点距離 150mm
絞り F6.3 シャッター 1/60秒 ISO オート WB オート(曇天気優先) 露出補正 +0.3

4K UHD Fineで撮影。ミラーレス一眼による動画撮影の魅力は、数多くのレンズを適用できることだ。美しいボケが気軽に利用できる。

01 EOS R7の各部名称

KEYWORD >>> 各部名称

1 前面・上面の主な名称

EOS R7にはさまざまなボタンやダイヤルが配置されている。シャッターチャンスを見逃さないためにも、各部の名称と機能を覚えておこう。ここでは、各部名称を紹介する。

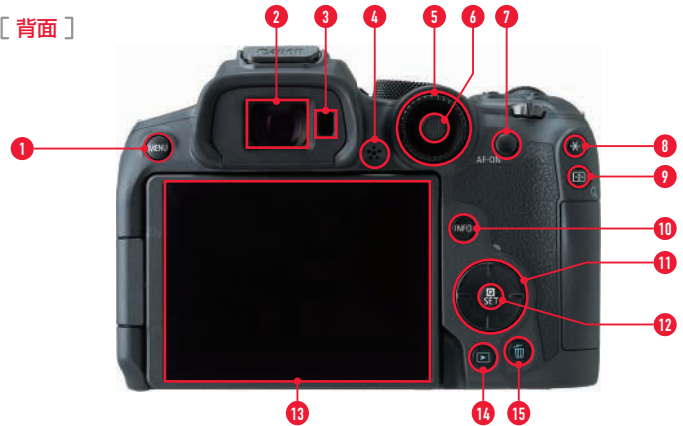
[前面・上面]



- | | | |
|--------------------|----------------|------------------|
| 1 シャッターボタン | 8 絞り込みボタン | 15 電源スイッチ |
| 2 セルフタイマーランプ/AF補助光 | 9 レンズマウント | 16 動画撮影ボタン |
| 3 RFレンズ取り付け指標 | 10 接点 | 17 ISO感度設定ボタン |
| 4 撮像素子 | 11 マイク | 18 メイン電子ダイヤル |
| 5 レンズロック解除ボタン | 12 マルチアクセスシュー | 19 マルチファンクションボタン |
| 6 リモコン受信部 | 13 モードダイヤル | |
| 7 フォーカスモードスイッチ | 14 マルチ電子ロックボタン | |

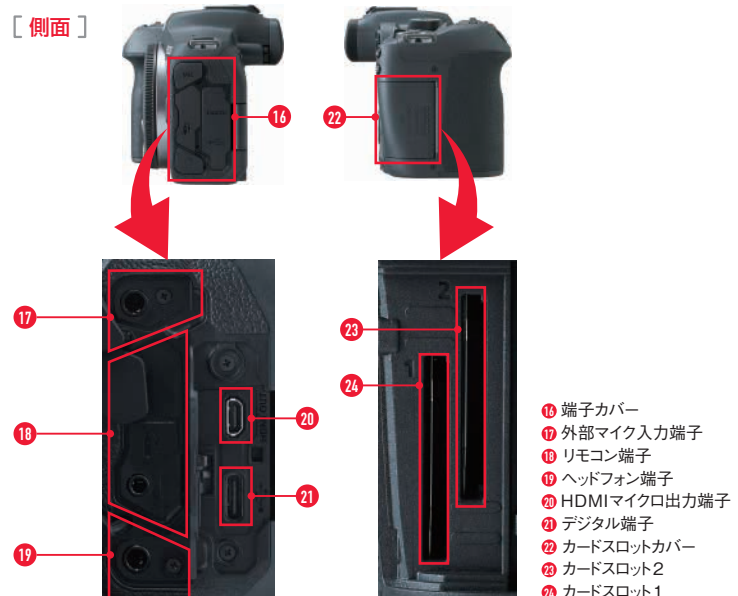
2 背面・側面の主な名称

[背面]



- | | | |
|----------------|---------------------|-----------------|
| 1 MENUボタン | 6 マルチコントローラー | 11 十字キー |
| 2 ファインダー接眼部 | 7 AFスタートボタン | 12 クイック設定/設定ボタン |
| 3 ファインダーオンセンサー | 8 AEロックボタン | 13 モニター |
| 4 スピーカー | 9 AFフレーム選択/拡大/縮小ボタン | 14 再生ボタン |
| 5 サブ電子ダイヤル | 10 インフォボタン | 15 消去ボタン |

[側面]



- | |
|-----------------|
| 16 端子カバー |
| 17 外部マイク入力端子 |
| 18 リモコン端子 |
| 19 ヘッドフォン端子 |
| 20 HDMIマイクロ出力端子 |
| 21 デジタル端子 |
| 22 カードスロットカバー |
| 23 カードスロット2 |
| 24 カードスロット1 |

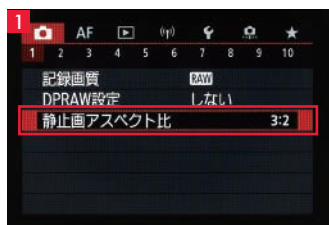
アスペクト比の設定

KEYWORD ▶▶ アスペクト比

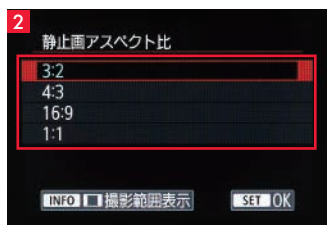
1 アスペクト比を知る

アスペクト比とは、画像の縦横比のことである。デジタル一眼カメラの画像の比率は3:2が一般的だが、SNSなどでは「1:1」や「4:3」の比率がよく使われる。アスペクト比を変えると写真の印象を変えることができるので、作品に応じてアスペクト比を変えてみるのもよいだろう。

[準備手順]



MENUボタンを押し、「**1**」の「静止画アスペクト比」を選択してSETボタンを押す。



変更したいアスペクト比を選択してSETボタンを押す。



横位置、縦位置の概念がない正方形の比率は、優しい印象で被写体がとらえやすいのが特徴。SNSなどでも扱いやすい比率だ。



長方形の場合、主題が明確なシーンでは空間を生かした描写が行いやすい。ここでも右に空間を意図的に作り、アクセントにした。

2 アスペクト比を変えて撮る

EOS R7ではアスペクト比を4種類から選択できる。初期設定となっている「3:2」は、自然な見え方が特徴で汎用性が高い。「4:3」はやや正方形に近く、優しい印象の比率。「16:9」は動画撮影でよく使われ、迫力ある作画りに最適だ。正方形の「1:1」は、主題が明確な場面で重宝する。アスペクト比は撮影後でも変更できるが、最適な構図を模索するならば、あらかじめ事前に設定することをおすすめする。

[アスペクト比の種類]

[1:1]



空間を詰め、被写体を目立たせて表現できる。主題が明確なシーンで効果的。真ん中に被写体を配置する日の丸構図との相性もよい。

[16:9]



映画のワンシーンのように、ドラマチックに被写体を切り取ることができる比率。雄大な自然風景などをパノラマ的に描写できる。

[3:2]



フルサイズ機やEOS R7のようなAPS-C機のデジタル一眼カメラで広く使われている。肉眼に近い見え方で、扱いやすく汎用性が高い。

[4:3]



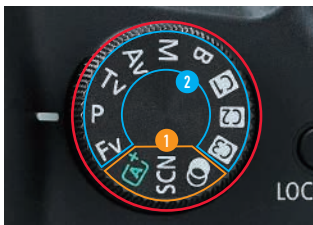
マイクロフォーサーズ、またはフォーサーズ機のセンサーサイズに合わせて作られている。左右がやや詰まり、正方形に近いのが特徴。

ダイヤルとボタンの操作

KEYWORD ▶▶ モードダイヤル ▶ 電子ダイヤル ▶ ボタン

1 モードダイヤルを知る



撮影モードはモードダイヤルを回して変更する。モードダイヤルには、被写体やシーンに応じてカメラ任せの撮影ができる「かんたん撮影ゾーン」と自分の思い通りの撮影ができる「応用撮影ゾーン」がある。使用頻度の多い撮影モードはカスタム撮影モードに設定しておくのもおすすめだ。



[モードダイヤル]

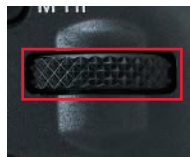
①「かんたん撮影ゾーン」の基本操作はシャッターボタンを押すだけ。②「応用撮影ゾーン」では自分好みの設定で撮影を行うことができる。

[かんたん撮影ゾーンの種類]

	全自動撮影 (シーンインテリジェントオート)	カメラまかせの全自動撮影ができるモード。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行う。
SCN	スペシャルシーン モード	被写体やシーンに合わせて13種類の中から撮影モードを選ぶだけで、撮影に適した機能が自動設定され、カメラまかせで撮影することができる。
	クリエイティブ フィルターモード	フィルター効果を付けた画像を撮影することができる。撮影前にはフィルター効果を確認することも可能。

2 電子ダイヤルを知る

EOS R7では、2つの電子ダイヤルとマルチコントローラーが搭載されている。メニューの操作はもちろん、撮影時の設定変更にも使用する。撮影モードによっては、電子ダイヤルによって変更される項目が変わるため、撮影前にダイヤルで何が変更されるか確認しておくよいだろう。また、電子ダイヤルは初期設定とは異なる機能を割り振れるカスタマイズ機能(→P.146)がある。操作に慣れてきたら、自分好みの設定にするのもおすすめだ。



[メイン電子ダイヤル]

カメラ上面にあるダイヤルで、主に人差し指で操作を行う。M-Fnボタン、ISOボタンを押した後にダイヤルを回すと撮影の設定ができる。ダイヤルのみを回すと絞り数値やシャッタースピードの変更などに使用する。



[サブ電子ダイヤル]

カメラ背面にあるダイヤルで、主に親指で操作を行う。M-Fnボタン、ISOボタンを押した後にダイヤルを回すと撮影の設定ができる。ダイヤルのみを回すと絞り数値や露出補正の変更などに使用する。



[マルチコントローラー]

8方向キートと中央押しボタンのコントローラー。主に親指の腹で操作を行い、撮影時の設定変更だけでなく画像再生時における拡大位置表示の移動、ホワイトバランス補正なども可能。

3 主なボタンを知る

撮影設定を変更する際に使用する主なボタンは4つある。ほかにもボタンはあるが、最初は撮影設定を変更するボタンの機能や操作方法を覚えておくよいだろう。



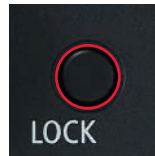
[M-Fn]

マルチファンクションボタン。このボタンを押し、サブ電子ダイヤルを回すとISO感度、ドライブモード、AF動作などが設定できる。




[SET (Q)]

クイック設定/設定ボタン。各種設定画面で内容を決定するほか、クイック設定画面で主要な撮影設定を変更することができる。



[LOCK]

マルチ電子ロックボタン。「5」の「マルチ電子ロック」を設定し、このボタンを押すと、不用意な操作による設定変更を防止できる。



[INFO]

インフォボタン。ボタンを押すことで、モニターやファインダー内の撮影情報の表示内容が切り替えることができる。

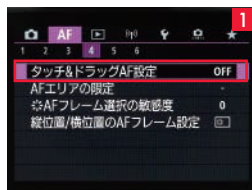
タッチ&ドラッグAF

KEYWORD ... タッチ&ドラッグAF

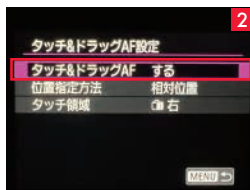
1 タッチ&ドラッグAFを知る

タッチ&ドラッグAFとは、ファインダーを覗きこみながらモニター画面をタッチしたりドラッグしたりして、AFフレームを移動する機能のこと。ファインダーを覗いているときは、モニターには何も表示されないが、モニターを指でなぞることでAFフレームを自由に動かせるため、直感的かつ素早く操作ができるのが魅力だ。

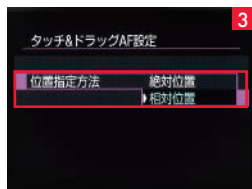
[設定方法]



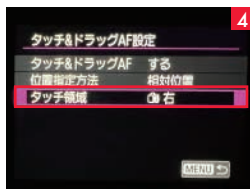
MENUボタンを押し、「AF4」から「タッチ&ドラッグAF設定」を選択してSETボタンを押す。



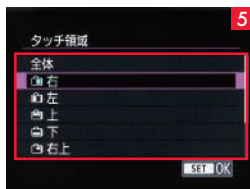
「タッチ&ドラッグAF」から「する」を選択し、SETボタンを押す。



「位置指定方法」ではタッチやドラッグしたときの位置の指定方法を設定できる。「絶対位置」ではモニターをタッチした位置にAFフレームが移動する。「相対位置」ではドラッグした方向と移動量に応じてAFフレームが移動する。



「タッチ領域」ではモニターの反応領域を設定することができる。



モニターのタッチしやすい部分を確認し、任意のタッチ領域を選択してSETボタンを押す。

2 タッチ&ドラッグAFで撮影する

タッチ&ドラッグAFは、特定の被写体にピントを合わせたい場面で大変重宝する機能だ。特に1点AFや領域拡大AF利用時にうまく併用したい。ファインダーを眺めながらAFフレームを素早く移動できるので、自分のリズムでテンポよく撮影が行える。タッチ領域も自分好みにカスタマイズし、使いやすさを追求してみよう。



DATA レンズ RF24mm F1.8 MACRO IS STM モード 絞り優先AE 焦点距離 24mm
絞り F1.8 シャッター 1/2000秒 ISO 100 WB オート(露気優先)

タッチ&ドラッグAFを用い、手前の花の蕊にAFフレームを移動させてピントを合わせた。この機能はピント合わせと構図の確認の両方を、ファインダー越しに行えるのが大きな魅力だ。



DATA レンズ RF-S18-150mm F3.5-6.3 IS STM モード 絞り優先AE 焦点距離 18mm
絞り F3.5 シャッター 1/640秒 ISO 100 WB オート(露気優先) 露出補正 +0.3

AFエリアは全域AFだったが、タッチ&ドラッグAFを使うことでスムーズに狙い通りバナナにAFフレームを移動させて撮影できた。全域AF時はモニターをタッチすると、オレンジ色の丸い枠が表示されるので、それを参考にピント合わせを行うとよいだろう。

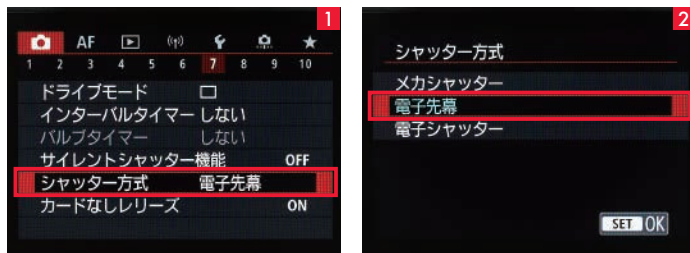
10 シャッター方式

KEYWORD ▶▶ メカシャッター ▶ 電子先幕 ▶ 電子シャッター

1 シャッター方式を設定する

EOS R7では、シャッター方式を「メカシャッター」「電子先幕」「電子シャッター」の3種類から選ぶことができる。シャッター方式は各々特徴があり、撮影シーンやシチュエーションによって設定するとよいだろう。

[設定方法]



MENUボタンを押し、「**7**」から「シャッター方式」を選択してSETボタンを押す。

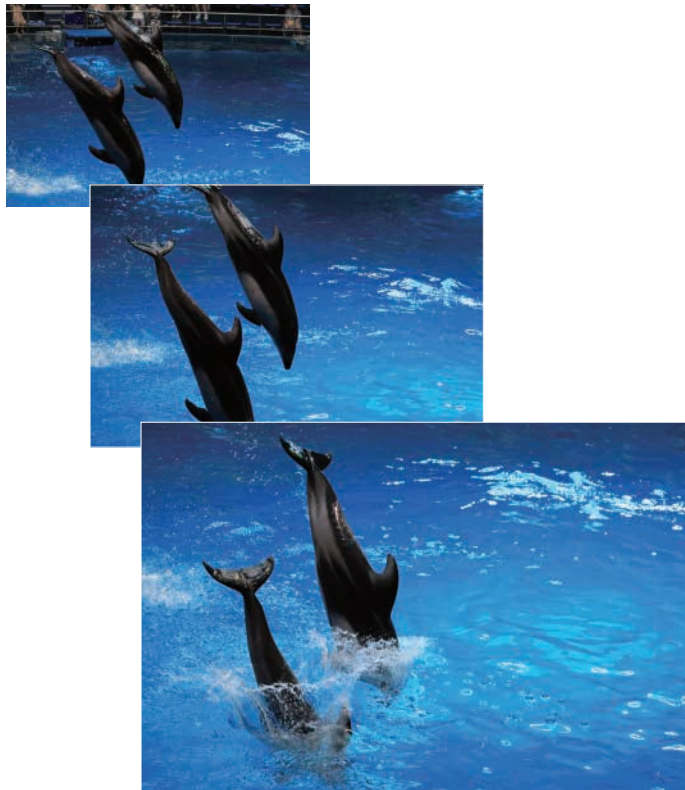
任意のシャッター方式を選択し、SETボタンを押すと設定される。

[シャッター方式の種類]

名称	内容
メカシャッター	撮影時にメカシャッターが作動する。明るいレンズの絞りを開いて撮影するときに選択するのがおすすめ。
電子先幕	三脚を使用する撮影ではメカシャッターよりもカメラブレを抑えられることがある。ストロボの同調シャッタースピードをメカシャッターよりも早く設定できる。
電子シャッター	メカシャッターや電子先幕よりもシャッター作動時の音や振動を抑えることができ、最高シャッタースピードを速く設定できる。明るいレンズの絞りを開いて撮影するときに選択するのがおすすめ。

2 メカシャッターで撮影する

メカシャッターは先幕と後幕の両幕を動かして撮影する。電子シャッター利用時は、動く被写体に対し像の歪み（ローリングシャッター現象）が生じやすくなるが、メカシャッターはこの現象が起きにくい。また、フリッカー（蛍光灯のちらつき）も出にくい。一方、シャッター羽を動かして撮影するため、ほかのシャッター方式に比べてシャッター音が大きい。シャッター幕が2枚動く仕様で、振動によりカメラブレしやすい機構になっていることも覚えておきたい。



DATA ▶ レンズ RF100-400mm F5.6-8 IS USM ▶ モード シャッター優先AE ▶ 焦点距離 100mm
 絞り F5.6 ▶ シャッター 1/1000秒 ▶ ISO 12800 ▶ WB オート(曇天優先) ▶ 露出補正 +0.3

EOS R7のメカシャッターは最高約15コマ/秒の高速連続撮影が可能。イルカのジャンプシーンも迫力いっぱいに取り取れる。こうした動く被写体は電子シャッターで撮ると、不自然な歪みが生じる可能性があるので注意したい。

04 シャッター優先AE (Tv)

KEYWORD ▶▶▶ シャッター優先AE (Tv) ▶高速シャッター▶低速シャッター

1 シャッター優先AE (Tv)を知る

シャッター優先AE (Tv) はシャッタースピードを自分好みに変更できる撮影モードだ。主に動く被写体を撮るときに用いることが多い。高速シャッターで被写体を止めたり、低速シャッターで被写体を意図的にぶらしたり、さまざまな動きの描写がシャッター優先AEで実践できる。また、暗所の撮影では手ブレをしないように、シャッター優先AEで高速シャッターを設定することもある。



DATA ▶ レンズ RF-S18-150mm F3.5-6.3 IS STM ▶ モード シャッター優先AE ▶ 焦点距離 35mm
 ▶ 絞り F32 ▶ シャッター 1/10秒 ▶ ISO 100 ▶ WB 太陽光 ▶ 露出補正 -0.3

通りすぎるバスを流し撮りした。流し撮りは、動く被写体の速さや向きに合わせて、低速シャッターでカメラを動かしながら撮影する。こうした描写もシャッター優先AEが効果的だ。

[設定方法]



1 モードダイヤルを回して、「Tv」にする。



2 モニターに「シャッター優先AE」が表示されたらSETボタンを押す。

2 高速シャッターで撮る

動きの速い被写体は、シャッター優先AEでシャッタースピードを速くして撮ってみよう。肉眼ではとらえることが難しい決定的瞬間を、しっかり止めてつぶさに記録できるようになる。これもまさしく写真ならではの表現だ。この際は、連写機能やAF機能もうまく組み合わせ、ブレだけでなくピントもしっかり意識しながら撮影に臨もう。



DATA ▶
 ▶ レンズ RF100-400mm F5.6-8 IS USM
 ▶ モード シャッター優先AE
 ▶ 焦点距離 100mm
 ▶ 絞り F5.6
 ▶ シャッター 1/1000秒
 ▶ ISO 12800
 ▶ WB オート(曇り気優先)
 ▶ 露出補正 +0.3

イルカショーの一幕。1/1000秒の高速シャッターで撮影することで、水しぶきまでしっかり止めて描写できた。高速連続撮影+とサーボAFの組み合わせで撮影している。

3 低速シャッターで撮る

動く被写体は止めて写す方法もあるが、逆にぶらして動感を演出する撮り方もある。その典型例が水流の描写だ。ぶらすことで、絹糸のように滑らかな質感で水の流れを撮影できる。こうした低速撮影で注意したいのが手ブレだ。画面全体がぶれないように、カメラはしっかり三脚(→P.126)で固定して撮影に臨むようにしよう。



DATA ▶
 ▶ レンズ RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM
 ▶ モード シャッター優先AE
 ▶ 焦点距離 45mm
 ▶ 絞り F9
 ▶ シャッター 0.8秒
 ▶ ISO 100
 ▶ WB 太陽光
 ▶ 露出補正 -0.3

0.8秒の低速シャッターで撮影。ぶれた水流が印象的だ。こうした描写はぶれている部分とぶれていない部分のメリハリが重要。画面全体がぶれないように、三脚でカメラを固定して撮影した。

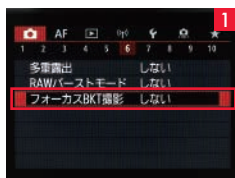
04 フォーカスBKT撮影

KEYWORD 特殊撮影 ▶ フォーカスBKT撮影 ▶ DPP

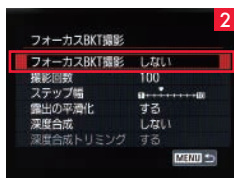
1 フォーカスBKT撮影を知る

フォーカスBKT撮影とは、1回の撮影で自動的にピント位置を変えながら連続撮影を行う機能のこと。撮影した画像から広い範囲でピントの合った画像を生成し、深度合成機能のあるEOS用ソフトウェアのDPP (Digital Photo Professional) (→P.172) などを使用してパンフォーカス画像を合成することもできる。ピントが合わせにくい被写体に有効な機能だ。

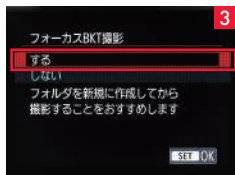
[設定方法]



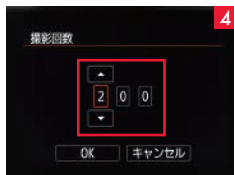
MENUボタンを押し、「**6**」から「フォーカスBKT撮影」を選択してSETボタンを押す。



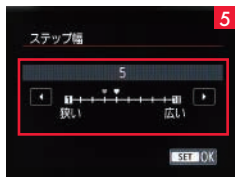
「フォーカスBKT撮影」を選択してSETボタンを押す。



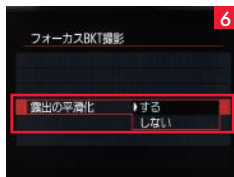
「する」を選択してSETボタンを押す。



「撮影回数」を選択し、「撮影回数」を2～999回の範囲で選択する。



「ステップ幅」を選択し、十字キーでピントの移動幅を設定する。



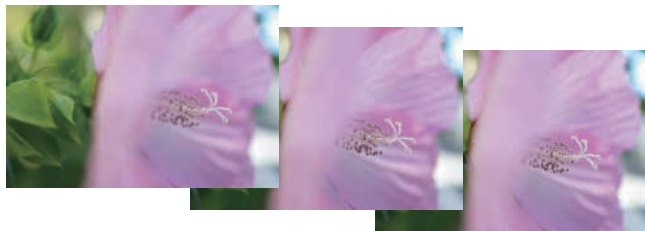
「露出の平滑化」を選択し、「する」か「しない」を選択する。「する」を選択すると明るさの変化が補正される。

2 フォーカスBKT撮影をする

フォーカスBKTは、近距離側にピントを合わせてシャッターを切ると、無限遠側にピントを移動しながら連続撮影してくれる。設定した枚数に達するか、ピント位置が無限遠に達すると撮影が終了する。そのため撮影したカットから、自分好みの1枚を選択することができる。なお、フォーカスBKTは三脚の使用を前提とし、静止した被写体に対応する機能となる。動く被写体には向きなので注意したい。



フォーカスBKTで撮影枚数が多くなる場合は、フォルダを新規作成し、そこに画像を保存しよう。撮影後の作業が楽になる。画面上の「**6**」をタッチし、「OK」を選んで作成する。



奥行きのある位置からハイビスカスを接写した。撮影回数10回、ステップ幅はやや狭めて3にした。長く伸びた蕊の中心付近にピントの合った1枚を選択。フォーカスBKTでとらえたからこそ、きちんとピント位置を見定めることができた。

カスタム撮影モード

KEYWORD ・・・ カスタム撮影モード

1 カスタム撮影モードを知る

設定した撮影機能やメニュー機能、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容は、カスタム撮影モードに一括登録できる。利用頻度の高い組み合わせを必要な場面で呼び出し、再度同じ設定値で撮影できるのだ。ポートレート用、スポーツ用など、自分の撮影スタイルに合わせて登録してみよう。EOS R7ではC1～C3までの3スタイルが、静止画撮影時、動画撮影時のそれぞれで登録可能となっている。



動く被写体用に登録したカスタム撮影モードを利用。AF方式をサーボAF、検出する被写体を「乗り物優先」、AFエリアを「領域拡大」に設定し、高速シャッターで撮影した。AF機能は設定項目が細かく、カスタム撮影モードを使えば、それぞれをパッケージにして呼び出せて重宝する。

[設定方法]



モードダイヤルを回して、「C1」「C2」「C3」のいずれかにする。

画面にモードが表示されたら、SETボタンを押す。

2 カスタム撮影モードを設定する

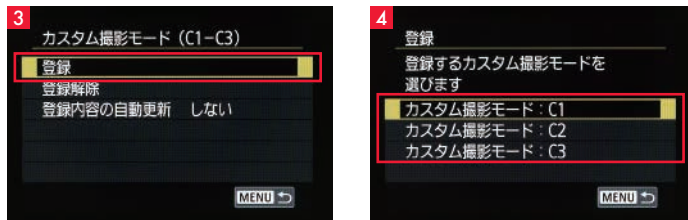
カスタム撮影モードを設定するときは、まずはモードダイヤルで基準となる撮影モードを設定しよう。その後、目的に合わせたいろいろな設定を行っていくとよい。カスタムモードは3つまで登録ができるため、自分がよく撮るシーンや被写体から選択するとよいだろう。

[設定方法]



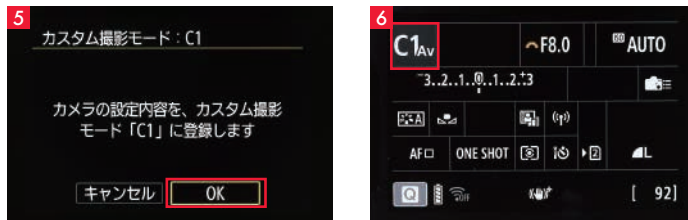
始めにカスタム撮影モードに登録したい撮影の設定を行う。

MENUボタンを押し、「**6**」から「カスタム撮影モード(C1-C3)」を選択してSETボタンを押す。



「登録」を選択してSETボタンを押す。

登録するカスタム撮影モードをC1-C3から選択する。



「OK」を選択してSETボタンを押す。

設定したカスタムモードを選択すると、登録した設定に切り替わる。

05 ファームウェアアップデート

KEYWORD ▶▶▶ ファームウェア

1 ファームウェアアップデートを確認する

新しいファームウェアが公開されると、Canonのホームページから無料でダウンロードすることができる。ファームウェアはEOS R7を最新の機能にアップデートしてくれるので、最新のものが出たらアップデートするようにしよう。ファームウェアのバージョンはMENUボタンを押し、**6**の「ファームウェア」から確認することができる。アップデートは、Camera Connectを使用する方法とメモリーカードを使用する方法、EOS Utilityを使用する方法の3つの方法がある。



[ダウンロードページ]

ファームウェアはキヤノンのホームページからダウンロードが可能。アップデートする際は、カメラのバッテリー残量に注意する。アップデート中に電源が切れると故障の原因にもつながるため、アップデート前にはバッテリーをフル充電にし、カメラ操作は行わないようにしよう。

[Camera Connect(スマートフォン)からのアップデート]



アプリ右上の3本線をタップし、「ファームウェアアップデート」を選択する。

アップデートするカメラを選択してタップする。

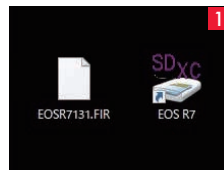
ファームウェアのバージョンを確認してダウンロードをタップする。

ファームウェアがカメラ本体に転送されたら、カメラ側で「OK」を選択する。

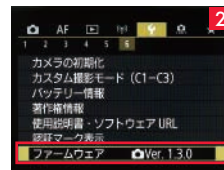
2 メモリーカードを使用してアップデートする

メモリーカードを使用してアップデートをする場合は、メモリーカードを初期化する必要があるため、メモリーカード内に残しておいた画像があるときは必ずバックアップしておこう。

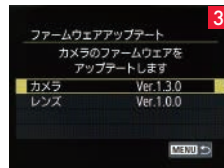
[設定方法]



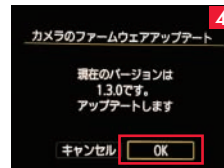
メモリーカードを初期化(→P.19)して、パソコンからファームウェアのデータをコピーする。



MENUボタンを押し、「**6**」から「ファームウェア」を選択してSETボタンを押す。



アップデートする「カメラ」「レンズ」の項目を選択してSETボタンを押す。

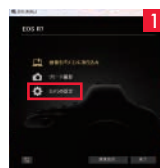


アップデート画面に切り替わったら、更新内容を確認してSETボタンを押す。

3 EOS Utilityを使用してアップデートする

EOS Utilityでも、ファームウェアのアップデートが可能だ。EOS Utilityのメイン画面の「カメラの設定」からアップデートを実施しよう。メモリーカードの初期化は必要ないが、バッテリー切れを防ぐため、フル充電にしておくとうアップデート中も安心だ。

[設定方法]



EOS Utilityを起動して、メニュー画面から「カメラの設定」を選択してクリックする。



「ファームウェアアップデート」をクリックしてアップデートのファイル先確認へと進む。



「ダウンロードファイルの選択」から保存してあるアップデートファイルを①参照から選択して、②「次へ」をクリックするとアップデートが始まる。